

## 会長挨拶



2024年より、菅沼前会長の後を受けて、第五代・日本顔学会会長に就任した阿部恒之です。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私と顔学の出会いは、東北大学文学部哲学科心理学専攻の3年生に遡ります。「心理学特殊実験」という、卒論の練習に位置づけられるレポート実習で、「顔みたいに見える蝶々の写真を記憶するとき、顔独特の記憶現象が現れるか」という内容のレポートを書いたのが始まりです。ちょうどこの頃は、心理学で顔の知覚研究が勃興し始めたころであり、日本国内では、まだ、数名しか研究者がいませんでした。しかし、指導教授と博士課程の先輩が、その貴重な数名だった

たのは幸いでした。

卒業後、化粧品メーカーの研究员になって、20年間研究を職務としました。ストレスやアロマロジーなどの生理心理学的研究と共に顔の研究にも精を出し、「顔だちマップ」の開発や、化粧療法の研究などを行いました。この20年間で、「化粧心理学」草創の一翼を担うことができたと自負しています。

在職のまま、東北大学大学院への編入学を認め、学位を取らせていただいた会社には、今も感謝しています。しかし2005年、愛着あるこの会社を辞し、出身校の東北大学に移籍しました。さらに、2023年3月から、2025年6月まで、公益社団法人日本心理学会の理事長を務めることになりました。私自身の力不足の上に、日本心理学会理事長を兼務することで、日本顔学会会長として十分な働きができないのではないかと不安に感じています。それゆえ、菅沼薫前会長のお力を頼りにしています。事情に鑑み、皆様、大目に見ていただければ幸いです。

さて、顔学会は、学域をベースとした一般的な学会と異なり、顔という対象を求心力として集う、多学域・多専門家の集合体です。学会運営作法が異なる方々が、手探りで会則・規定を整え、工夫しながら組織を構成し、多くの業務を手弁当で行ってきました。合意形成も、広く意見を募り、実に慎重な手続きで行われてきました。このような民主的な運営は、日本顔学会の誇るべき宝だと思います。

また、これまでの歴代会長のお人柄に恵まれ、朗らかで楽しい雰囲気も当学会の特徴です。研究も大会も、そして学会運営も、大いに楽しみながら行う。そういう伝統が構築されていると思います。この伝統は、大切にしていきたいと思います。

新たに会長となった私としては、上のような特質を大切に継承し、以下のような願いをもって任に当たりたいと考えています。

- ・ **顔学フォーラム**：「参加しないと損だ」と思っていただけのような、いわば年に一度のお祭りのような大会。
- ・ **日本顔学会誌**：様々な観点から顔を考える、バリエーションに富んだユニークな論文集。
- ・ **顔学サロン・顔学ニューズレター**など：顔学を社会に広く発信する。会員になりたいと思えるような広報活動。
- ・ **総会・顔学通信**など：会員の皆様の多様な「文化」を尊重した会員コミュニケーション。
- ・ **学会運営**：参加してみたい、やって楽しいと感じていただけるような学会運営。

こういった願いを実現するために、会員の皆様のご協力をいただきながら工夫していきたいと思っております。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(似顔絵は橋本憲一郎さん作)